

令和2年度第1回埼玉県立近代美術館協議会会議録（抄録）

- 1 開催日 令和2年8月27日（木）
- 2 時間 午後2時00分～午後4時00分
- 3 場所 埼玉県立近代美術館 3階 会議室
- 4 出席委員 菅原京子 中川昇次 松岡滋 小田倉泉 岡村文和
田村禮子 新倉美佳 三上豊
- 5 欠席委員 相馬千秋 加藤有希子 樋口昌樹 宮本重雄
- 6 事務局出席者 館長 建島哲
副館長 佐藤慶朗
教育主幹 田柳宏
学芸主幹 平野到
担当課長 矢嶋梨恵 田中孝佳
- 7 教育局出席者 なし
- 8 進行の概要
 - (1) 開会
 - (2) 館代表者挨拶（建島館長）
 - (3) 事務局等職員紹介
 - (4) 会長、副会長選出
会長に松岡委員、副会長に中川委員が選出された。
 - (5) 会議録署名委員指名
会長から署名委員として小田倉委員、岡村委員が指名された。

9 議事の内容と質疑応答

(1) 報告事項・意見

ア 令和元年度事業報告

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、普及事業、美術館の利用促進事業、子ども向け事業、学校との連携、一般向け団体案内、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数、決算の概要について報告を行った。

【主な質疑応答】 なし

イ 令和2年度事業実施状況

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、普及事業、美術館の利用促進事業、子ども向け事業、学校との連携、一般向け団体案内、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数、当初予算の概要について報告を行った。

【主な質疑応答】

委員 年号の表記の仕方であるが、和暦だけでは分かりにくいので西暦も併記してはどうかと考えている。また、先程、入館者の感染防止対策について御説明いただいたが、職員の感染防止対策はどのように行っているのか。

事務局 職員については、自宅で検温してから出勤するように指示している。もし、検温の結果、熱がある場合は特別休暇を取得して休ませるようにしている。

委員 業者への対応はどのようにしているのか。

事務局 業者については警備員室に消毒液を設置しており、そこで消毒してもらっている。

委員 今年度の企画展「4つの水紋」について、出品作家のうち2名については説明にあったが、残り2名はどのように考えているのか。

事務局 現在、担当が調整中のため、今後、変更となる可能性があるが、奥原晴湖と遠藤利克を考えている。

委員 イスの企画展については、例えば、ある作品を接写したものを見せて、「これはどのイスでしょう？」のように、クイズみたいなことをやってもよいのではないかと考えている。そして、無料の展示ではあるが、全問正解者にはトートバッグみたいな商品をあげるみたいに、付録を付けて集客力を上げるようなことを考えてもよいのではないか。

また、昨年度決算と今年度予算を比較したところ、同じ数字になっているところもあれば、違う数字になっているところもある。例えば、助成金については昨年度決算では計上されているが、今年度予算には記載がない。逆にオリパラ事業については同じ数字が計上されている。この状態で正しいのか伺いたい。

事務局 予算については、昨年度は補正後のもの、今年度は年度当初のものが記載されているため差異が生じる可能性がある。

また、オリパラ事業のように、ある程度事業内容が固まっているものは、毎年同じ予算額となる傾向があるが、教育財産管理費のように必要に応じて、その都度予算をもらうものについては、昨年度決算と今年度当初予算が大きく乖離することもある。

助成金については、獲得できるかが不明確であるため、当初予算では計上できず、受給が決まった段階で予算計上することとしている。

委員 一般展示室の入場者の感染予防対策は、館入口での対応のみか。

事務局 館入口での対応に加え、展示室を借り受けている主催者に対し、主催者として万全の対策を取るようお願いしている。

ウ 博物館評価について

事務局から会議資料を使用して、令和元年度の評価結果、令和2年度評価について報告を行った。

【主な質疑応答】

委員 国立の場合は、美術館と博物館を分けて評価している。また、新型コロナウイルスの影響により新しい生活様式が広がり始めているなかで、既存の制度が変わっていくことは十分考えられる。美術館の評価基準についても、今までとは違う部分が出てくるだろうと思っている。先を見越して、評価基準の見直しを考えていく必要があるのではないか。

事務局 委員のおっしゃる通りで、例えば、昔は広報媒体としてホームページが主流であったものが、今では、ブログやツイッターが主流となりつつあるなど変化は起こり得るものである。評価基準の見直しは必要と考えるが、新しい生活様式が広がりはじめたばかりであることを考えると、今年度の指標に反映させることは難しいと考えている。

また、国が美術館と博物館で評価基準を分けているのは、それぞれを所管するのが別法人であることも影響している。

指標を見直す必要があるというのは委員のおっしゃる通りだと思うので、いきなり全部は難しくとも、できるところから見直しをできればと考えている。

事務局 県立の博物館・美術館5館の評価を担当する者が集まり、評価方法を検討する場があるので、その際にいただいた意見を紹介し、5館全体で検討していきたい。

－その他－

委員 7月当初だが、トイレを貸してほしいという公園利用者に対して、館内のトイレは使えないので、公園のトイレを使ってほしいと案内している光景を目にした。ハードルを高くするのは仕方ないところもあるが、公園にある美術館という面もあるので、どうにかしてほしい。

事務局 今はトイレのみの利用も認めている。マスクを着用し、消毒、検温をすれば誰でも入館できる状態である。

委員 竹橋の図書館では定員2名で、事前に貸出予約をしたものしか見せてもらえない。普段は開架式になっていて自由に見られるのが良いと思っていたのだが、本に触ること自体がアウトになってしまった。大宮の図書館は開架式で30分は大丈夫となっている。ここの資料閲覧室も同じレベルにはしてほしい。

事務局 接触を伴うサービスについては判断が難しく、接触を伴う場合の感染リスクの指標は正確なものが出ていない状況である。図書資料についても触ったら、3日間保管してから出した方が安全であるとか、いろいろなことが言われている。まだ、見通しが立っていないところであるが、何らかの形で開室できればと考えている。ただし、感染リスクを伴う場所なので、何かしらの

対策は必要だと思う。

委員 入館時の対応であるが、マスクをして、消毒、検温と、どこも同じような対応をしている。美術館なのだから、ワクワクする対応があるかと思ってきたが、そうではなかった。入館者カードのデザインや置き方なども、「さすが！」と思わせるものが用意できれば、ロコミなどの影響は大きいので、よい効果があるのではないか。

新型コロナウイルスの影響により世の中に閉塞感が漂うなか、せっかく美術館に足を運んでいただいた方に、ときめきを感じながら展示物を見ていただき、それを自分の生活に活かしてもらうような繋がりを作れる空間を用意してもらえればと思う。注意書きの大きさやデザイン、置き場所、結界の紐やチェーンなど、お金をかけずにできることもあると思うので、検討してもらえればと思う。

事務局 感染対策のためエントランスの長椅子は1つ飛ばしに座ってもらっているが、そこにキャラクターの表示物を置くなどの工夫を行っている。あらゆる面を再度、検討し、心豊かな気持ちで帰ってもらえるように見直しを行いたい。

(以上)